

3 **へき地の医療** ※○の項目は、重点事項

1 **現状と課題**

(1) へき地医療を支える医師の確保

現 状	課 題
<p>○県内には、無医地区※₁が9市町村21地区、無医地区に準じる地区※₂が8市町村21地区あります。</p> <p>○本県の人口10万人当たりの医療施設従事医師数は、320.1人で全国平均の256.6人を上回っています。</p> <p>○自治医科大学において、卒業後、へき地に勤務する医師を養成しており、卒業後は県が県職員として採用し、研修を除く義務年限※₃期間中、へき地医療拠点病院等に配置しています。</p> <p>○大学医学部に地域枠を設置し、卒業後は研修を除く義務年限期間中、へき地を含む県北等の医師不足地域で幅広い診療に対応できる医師を養成しています。</p>	<p>○岡山市、倉敷市、津山市及び早島町を除く市町村で人口10万人当たりの医師数が全国平均を下回り地域偏在が解消されていないことから、医師確保計画と連動し、地域の状況に応じた医師の確保が必要です。</p> <p>○義務年限終了後の自治医師の県内定着率は60.8%で、全国平均の68.8%を下回っていることから、義務年限終了後の地域枠卒業医師と併せ、地域に定着する取組が求められています。(図表7-2-3-1)</p>

<p>※1 無医地区</p> <p>医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区。</p> <p>※2 無医地区に準じる地区</p> <p>無医地区の定義には該当しないものの、無医地区に準じた医療の確保が必要と認められる地区。</p> <p>※3 義務年限</p> <p>自治医科大学等卒業後、知事の指定する医療機関で医師として勤務する期間。この期間を終了すると、大学在学中に貸与された修学資金の返還が免除されます。</p>

図表7-2-3-1 義務年限終了後の自治医科大学卒業医師の勤務状況（令和5（2023）年度）

区 分	人 数	県内定着率	全国平均
義務年限終了者	74人		
県内勤務	45人	60.8%	68.8%
へき地医療機関勤務	17人		

(資料：岡山県医療推進課)

(2) へき地における診療体制の確保

現 状	課 題
<p>○へき地医療拠点病院を県内9か所指定するとともに、岡山済生会総合病院にへき地医療支援機構を設置し、へき地医療に係る計画・立案、事業調整等を実施しています。(図表7-2-3-2)</p> <p>◎へき地医療拠点病院において、無医地区等への巡回診療（検診）や、へき地診療所への医師派遣等を行っています。</p> <p>○離島住民の健康を守るため、社会福祉法人恩賜財団済生会により、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」が運営されています。</p> <p>○川崎医科大学附属病院により、ドクターヘリが運航されており、医師の少ない県北3保健医療圏の患者の搬送が、県全体の約5割を占めています。</p> <p>○救急医療やへき地医療に貢献する病院を開設する医療法人を「社会医療法人[※]」として認定しています。</p>	<p>○へき地診療所については、人口の減少等から効率的な運営が困難なため、医師派遣に対する支援が必要です。</p> <p>◎へき地医療拠点病院からへき地診療所の半分程度へ医師を派遣しており、引き続き診療所への派遣が必要です。また、医療アクセスに困難を生じている医師不足地域の状況に応じて、必要な対応が求められています。</p>

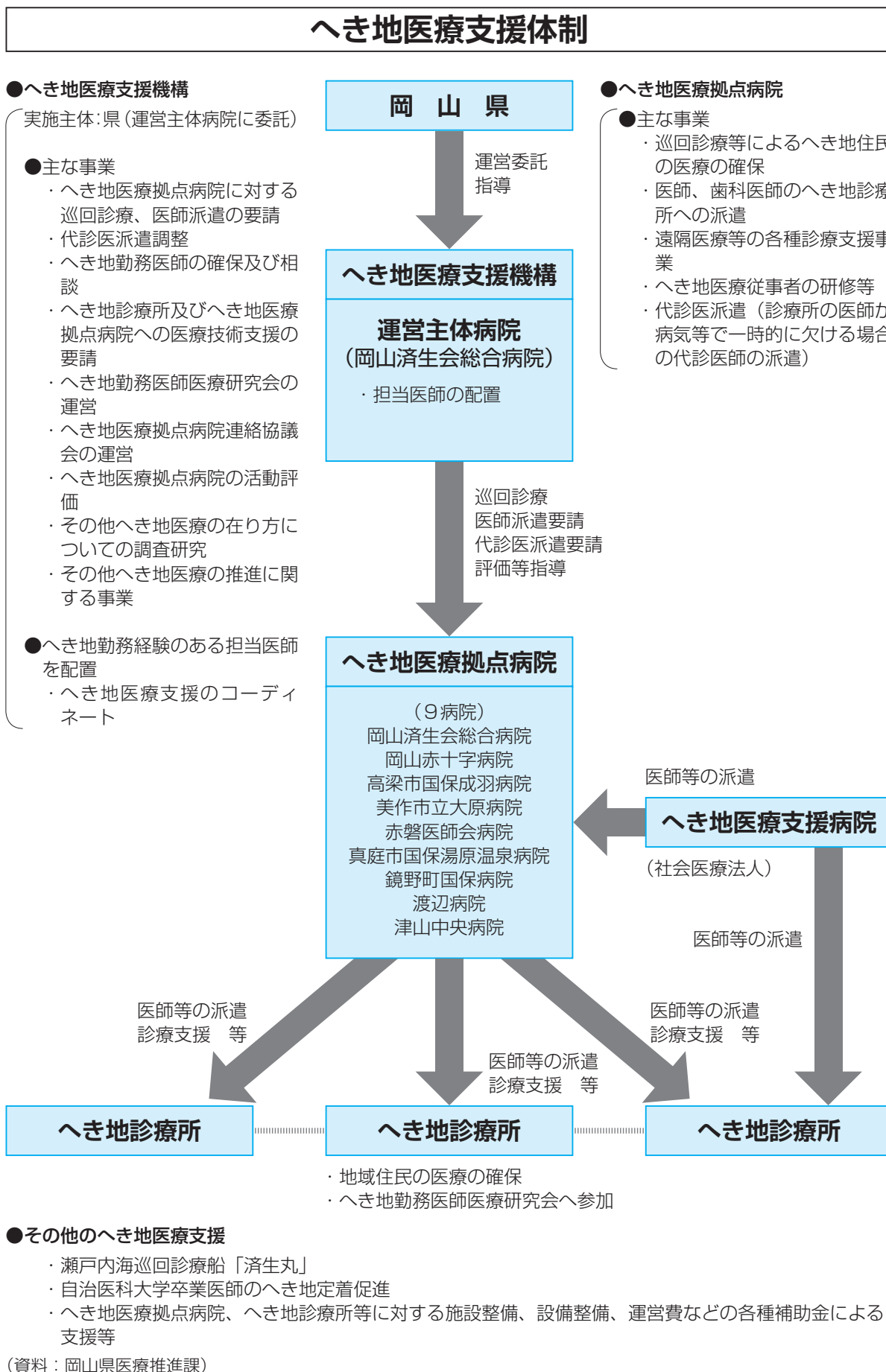
※ 社会医療法人

救急医療やへき地医療、周産期医療など特に地域で必要とされている医療の提供を担う、一定の要件を満たした医療法人を社会医療法人として認定し、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図るものです。

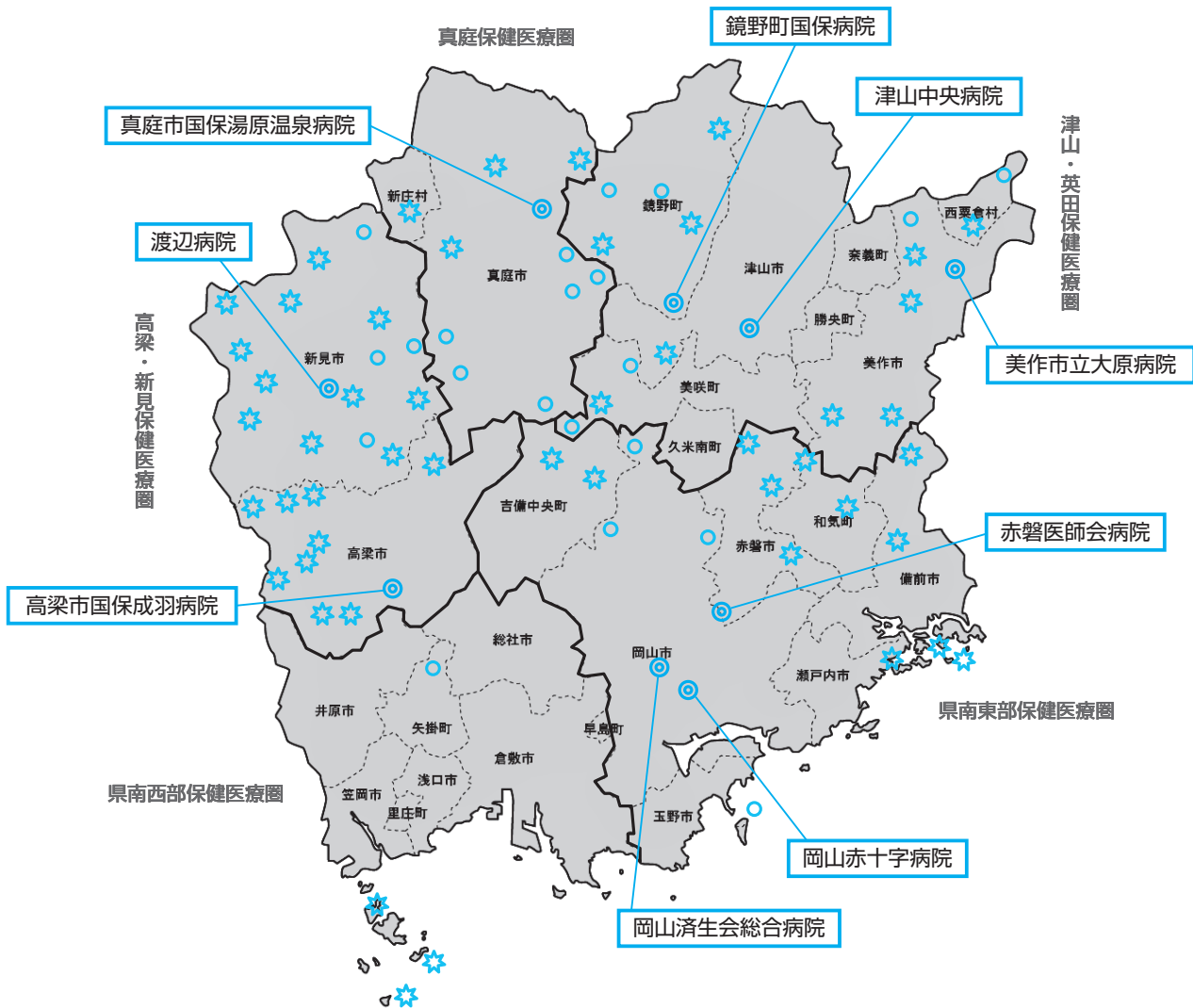
(3) へき地に勤務する医師の支援体制

現 状	課 題
<p>○へき地医療支援機構により、へき地診療所への代診医派遣の調整やへき地勤務医師等を対象とした研修などを実施しています。</p>	<p>○へき地に勤務する医師が、最新の知識や技術を習得する機会を得られるなどキャリアアップを支援する枠組みづくりが求められています。</p>

図表7-2-3-2 へき地医療支援体制



図表7-2-3-3 へき地保健医療対策現況図（令和6（2024）年3月1日現在）



	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
へき地医療拠点病院 ◎	3	—	2	1	3	9
へき地診療所 ☆	12	3	20	4	10	49
無医地区 ○	4	1	4	6	6	21

- 1 無医地区
医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、概ね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区
- 2 へき地診療所
医療機関のない地域で中心地から半径4kmの区域内に1,000人以上が居住し、容易に医療機関を利用できない地区の住民の医療を確保するため、市町村等が設置する診療所
- 3 へき地医療拠点病院
無医地区等を対象とする巡回診療、へき地診療所等への医師派遣等、へき地における医療活動を継続的に実施できると認められる病院で知事が指定したもの

（資料：岡山県医療推進課）

2 施策の方向

項 目	施策の方向
へき地医療を支える 医師の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○大学病院や臨床研修病院、へき地医療拠点病院等と連携しながら、医師の少ない県北等における医療提供体制を確保します。 ○自治医科大学卒業医師をへき地医療拠点病院に配置し、へき地診療所に派遣します。また、へき地診療所を運営する市町村等との連携を図りながら、へき地勤務医師の確保・定着に努めます。 ○大学医学部の地域枠や寄附講座などにより、地域医療（へき地を含む）を担う医師の養成、確保に努めるとともに、大学や研修病院等と連携し、幅広い診療能力を有する医師の育成を図ります。 ○自治医科大学学生や自治医科大学卒業医師と地域枠の医学生、地域枠卒業医師等との交流を深めます。また、医師本人が描くキャリアと医師不足地域における勤務との両立を支援するとともに、働きやすい環境づくりに努め、義務年限終了後の医師の県内定着を推進します。
へき地における診療 体制の維持	<ul style="list-style-type: none"> ◎へき地医療拠点病院による巡回診療やへき地診療所への医師派遣を継続します。また、オンライン診療は、地域における医療人材の効率的な活用に資することから、医療アクセスに困難を生じている医師不足地域の実情に応じて、オンライン診療を含む遠隔医療の活用の可能性を検討します。 ○へき地診療所等のオンライン診療を含む遠隔診療に必要な設備整備の支援などにより、診療機能の充実を図ります。 ○へき地医療支援機構において、地域医療支援センターとのより緊密な連携を図りながら、医師派遣調整やへき地勤務医師のキャリア形成支援など、へき地医療対策の企画・調整等を行います。 ○瀬戸内海に離島を有する4県と連携して、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」運営事業への支援を行い、離島等の住民の健康管理と医療の確保に努めます。 ○へき地では救急患者の搬送に長時間を要するため、消防機関等と連携してドクターヘリ等を積極的に活用します。
へき地に勤務する 医師の支援体制の 確保	<ul style="list-style-type: none"> ○へき地に勤務する医師が、学会や研修へ出席しやすくなるよう、代診医の派遣を行います。 ○地域医療支援センターや大学医学部の寄附講座、へき地医療拠点病院等と連携しながら、へき地医療を担う医師のキャリア形成を支援します。

3 数値目標

項目	現 状	令和11年度末目標 (2029)
義務年限終了後も県内に定着している 自治医科大学卒業医師の割合	60.8% R5年度 (2023)	62.2%

コラム

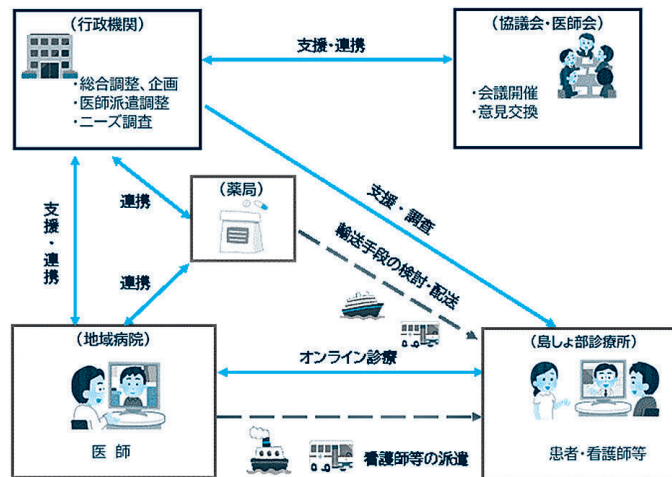


おかやまの強み ～先進事例・好事例～

オンライン診療による 中山間・島しょ部などの医療過疎地域における医療確保事業

岡山県医師会では、岡山県からの委託事業により、医療機関による医師派遣等の負担が大きい島しょ部（笠岡諸島）において、「オンライン診療（D to P with N）の実証実験」を実施しています。

この事業では、診療から薬品確保までのプロセスをその地域内で完結できるよう、従来の医療体制を基本にしつつ、ICTツールを取り入れながら住民及び医療従事者が共に身体的・経済的負担を軽減できる仕組みの構築を進めることとしています。



【へき地の医療】

【ストラクチャー指標】 ※医療サービスを提供する物質資源、人的資源及び組織体制を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
へき地診療	へき地の数	R4年度 (2022) (5年毎)	無医地区等調査	556地区 (0.4地区)	21地区 (1.1地区)	(人口10万対)
					4地区	県南東部
					1地区	県南西部
					4地区	高梁・新見
					6地区	真庭
	へき地診療所の数 (歯科を除く)	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	1,040施設 (0.8施設)	48施設 (2.6施設)	(人口10万対)
					12施設	県南東部
					3施設	県南西部
					19施設	高梁・新見
					4施設	真庭
	へき地診療所の病床数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	1,303床 (1.0床)	23床 (1.2床)	(人口10万対)
へき地支援 医療	へき地医療拠点病院の数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	345施設 (0.3施設)	9施設 (0.5施設)	(人口10万対)
					3施設	県南東部
					0施設	県南西部
					2施設	高梁・新見
					1施設	真庭
行政機関等 の支援	へき地医療支援機構の数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	73法人	4法人	
行政機関等 の支援	へき地医療支援機構の 専任・兼任担当官数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	38	1	
					41人	1人

【プロセス指標】 ※実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標

区分	指標名		調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
					全国	岡山県	
へき地 診療	へき地における診療・ 巡回診療の実施日数	診療日数	R4年度 (2022) (毎年)	県独自調査	-	4,814日	
		巡回診療日数		へき地医療 現況調査	1,884.0日	0日	
	へき地における訪問診療・ 訪問看護の実施日数	訪問診療日数		へき地医療 現況調査	29,581日	2,242日	
		訪問看護日数		へき地医療 現況調査	30,257日	4,362日	
	へき地保健指導所の 保健活動日数及び対象者数	保健活動日数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	2,751日	0日	
		対象者数		へき地医療 現況調査	16,827人	0人	
へき地 支援医療	へき地医療拠点病院からへき 地への巡回診療実施回数、延 べ日数及び延べ受診患者数	実施回数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	4,105回	3回	
		実施延日数			4,539日	3日	
		延受診患者数			23,734人	46人	
	へき地医療拠点病院からへき 地への医師派遣実施回数及び 延べ派遣日数	派遣回数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	14,077回	1,063回	
		派遣延日数			13,159.5日	903.5日	
	へき地医療拠点病院からへき 地への代診医派遣実施回数及 び延べ派遣日数	代診医派遣回数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	3,605回	0回	
		代診医派遣延日数			3,466.5日	0日	
	遠隔医療等ICTを活用した診療支援の実施状況		R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	337施設	7施設	
	へき地拠点病院の中で主要3事業の年間実績が 合算で12回以上の医療機関の割合		R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	69.9%	88.9%	
へき地医療拠点病院の中でへき地拠点病院の必 須事業の実施回数が年間1回以上の医療機関の 割合		R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	87.2%	88.9%		
行政機関 等の支援	協議会の開催回数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	61回	2回		
	協議会等におけるへき地の医療従事者（医師、 歯科医師、看護師、薬剤師等）確保の検討回数	R4年度 (2022) (毎年)	へき地医療 現況調査	35回	2回		